

みえDXボードミーティング Vol.2



三重県 デジタル社会推進局

2022. 01. 18.

- ① ご挨拶（最高デジタル責任者・デジタル社会推進局長）
- ② 「三重県 デジタル社会の未来像 2050」(仮称)に向けた
県民ヒアリングの結果と取りまとめ案について

ご挨拶



三重県



M I E

「三重県 デジタル社会の未来像 2050」（仮称）に向けた 県民ヒアリングの結果と取りまとめ案について



三 重 県



M I E

◆ 県民ヒアリングの目的 ◆

三重県の2050年に向けたデジタル社会の未来の姿について、県民の皆さまと対話形式で考え、DXに関する県民の声として取りまとめることにより、現在策定作業を進めている、新たに約10年間の県政運営の道筋を示すビジョン「強じんな
美し国ビジョンみえ」(仮称)と2026年度を目標年度とする計画「みえ元気プラン」(仮称)や、今後策定する県のデジタル戦略などの羅針盤(参考資料)とします。

◆ 取りまとめの経緯 ◆

参加者同士が未来の要素についての「共通の言葉」・「共通の認識」を前提とした対話が可能となるよう、まず冒頭に2050年に向けて世界で起こりうる課題や大きな変革などの状況について紹介する動画「みえDX未来動画」を視聴していただきました。県内5地域+オンライン、計71名の多様な立場の県民の皆さまによるグループインタビューやワークショップを開催し、活発な議論となりました。

◆ 今後の流れ ◆

★ 01/18(火) 「みえDXボードミーティング Vo.2」開催



★ 議論を踏まえて改訂 ⇒ ボードメンバーご確認



★ 庁内 確認 ⇒ 意見を踏まえて改訂



★ 最終版 確定 ⇒ 公表（～年度末）

- ① 昨年10月から11月にかけて、**三重県の2050年に向けたデジタル社会の未来の姿**について、県民の皆さまと対話形式で考える、「**みえDX未来インタビュー**」と「**みえDX未来ワークショップ**」を県内各地域で開催しました。
- ② インタビューやワークショップで対話を重ねた内容やアイデアなどについて、「**みえDXボードミーティング Vol.1**」の内容も踏まえ、「**デジタル社会の未来像**」と、その実現に向けた「**デジタル活用の主な観点**」を取りまとめました。
- ③ 「**みえDXボードミーティング Vol.2**」では、特に「**デジタル活用の主な観点**」について、**加筆修正の是非**、また、**追加の観点の有無**のご議論をお願いいたします。

デジタルの恩恵を実感し
住みたい場所に住み続けられる三重県

みんなの想いを実現する「あったかいDX」

⑥ 実行計画（みえDXアクションプラン(仮称)）

⑤ 政策化（みえDX戦略推進計画(仮称)）

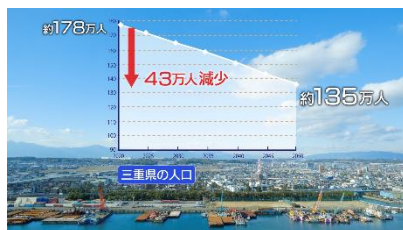
④ 共通の記憶（みえDX 事業記録動画）※編集中

③ 共通の言葉・共通の認識 2nd（デジタル社会の未来像）

② 自分ごと化（みえDX 未来インタビュー・ワークショップ）

① 共通の言葉・共通の認識 1st（みえDX 未来動画）

2021年度
実施事業



① わたしたちが直面する課題

これまでの社会が引き起こした地球規模の課題

- 地球温暖化
- 自然災害(地震)
- 人口爆発・食糧問題
- 少子高齢化

② DXがもたらす社会や暮らしの変化

デジタル技術による良い面と悪い面 その選択

- 多様な人との共生
- 暮らしやすいまち
- 個に適した医療・教育
- DXのリスク(分断、格差、貧困、差別、監視社会)

③ テクノロジーの進化による未来の可能性

これまでの枠にとらわれない未来社会の可能性

- 地球規模のAIと食糧問題解決
- 仮想現実
- モビリティ革命
- 再生医療・寿命延長
- 生殖医療の発展
- AI・ロボットとの共生

インタビュー・ワークショップの進め方

1

みえDX未来
動画を視聴

2

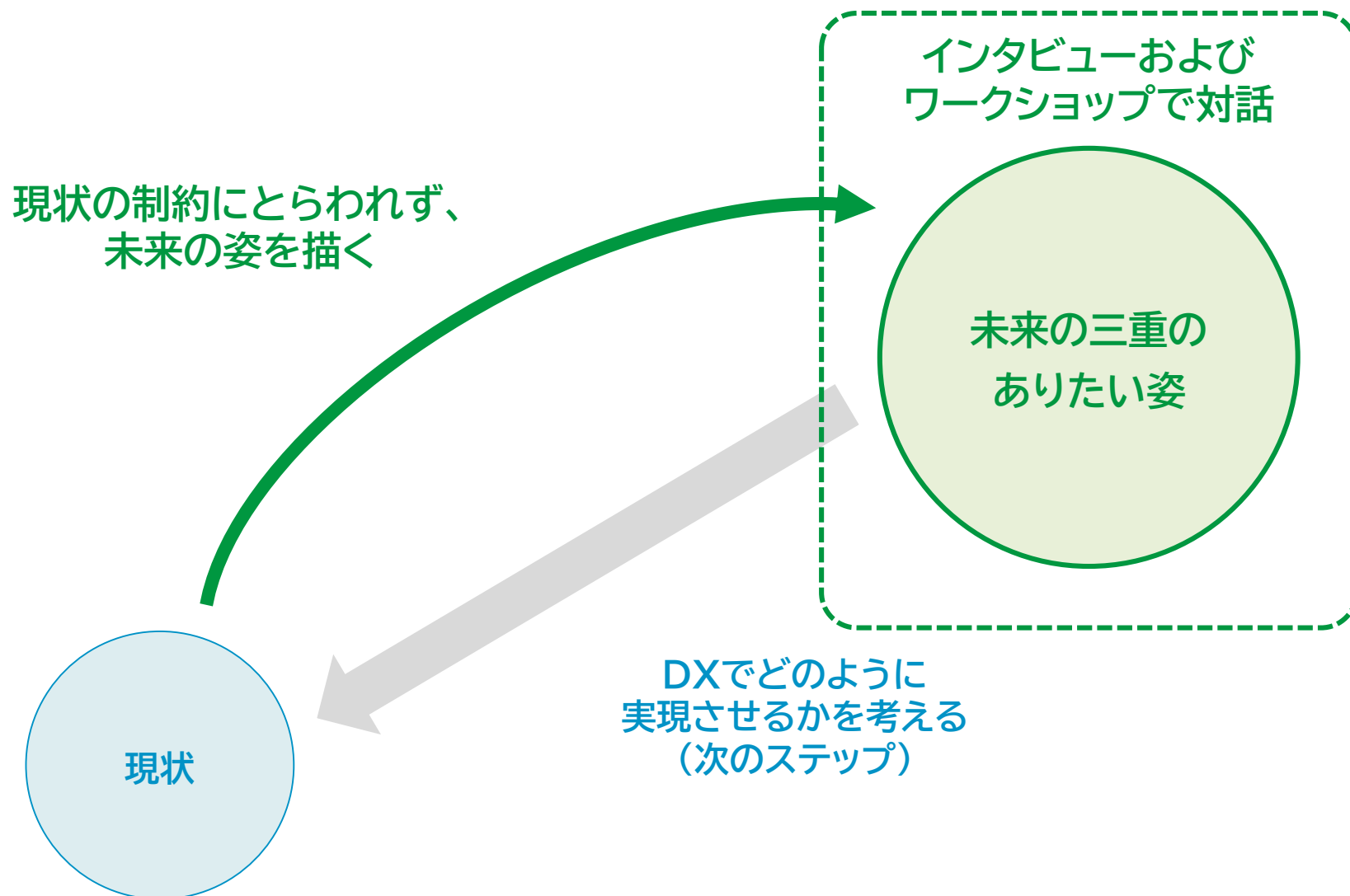
動画を視聴
感じたことや
ありたい姿
を対話する

3

三重の未来の姿
を具体的に
発想する

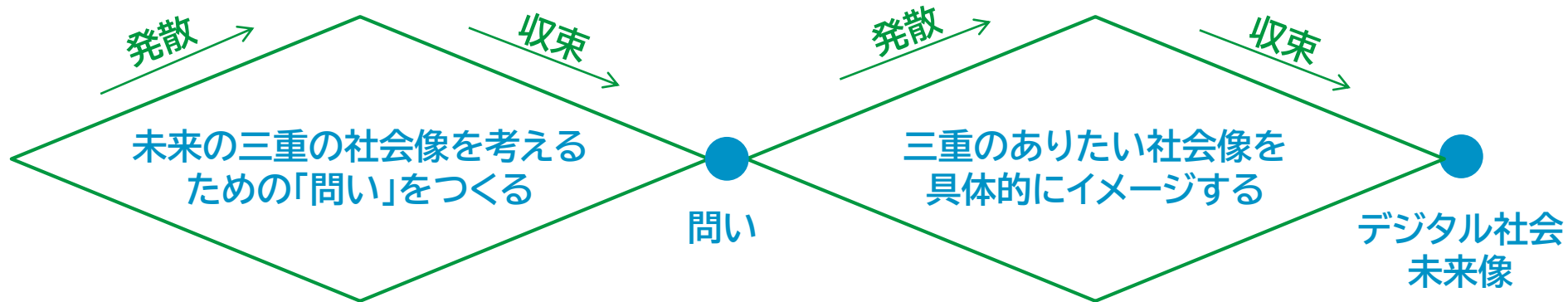
4

三重の未来の
ありたい姿
について改めて
対話する



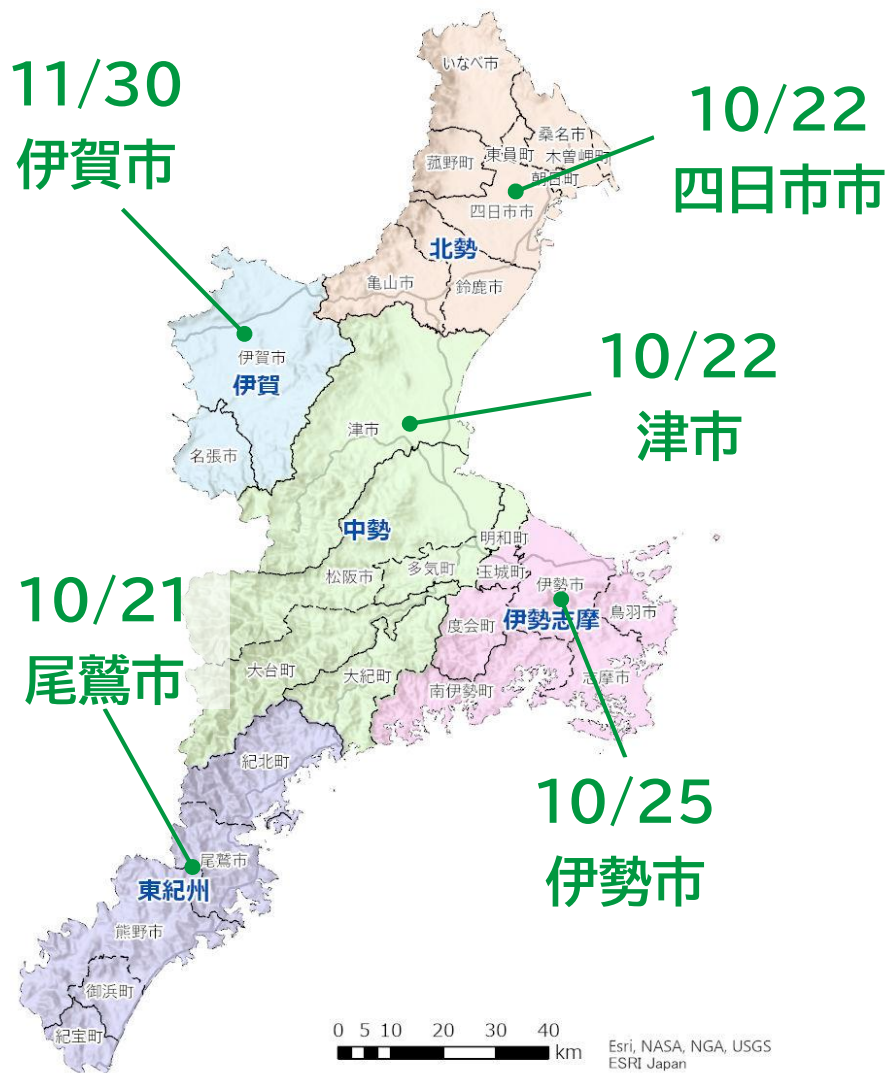
みえDX未来インタビュー

みえDX未来ワークショップ



- ✓世界、日本、三重の未来はどうか？
- ✓どんな想いをつないでいきたいのか？
- ✓実現のためにどんな課題があるのか？

- ✓「問い」を起点に、2050年の未来のイメージ(アイデア)を思い浮かべる
- ✓アイデアを眺めながら、ありたい未来の姿を定める



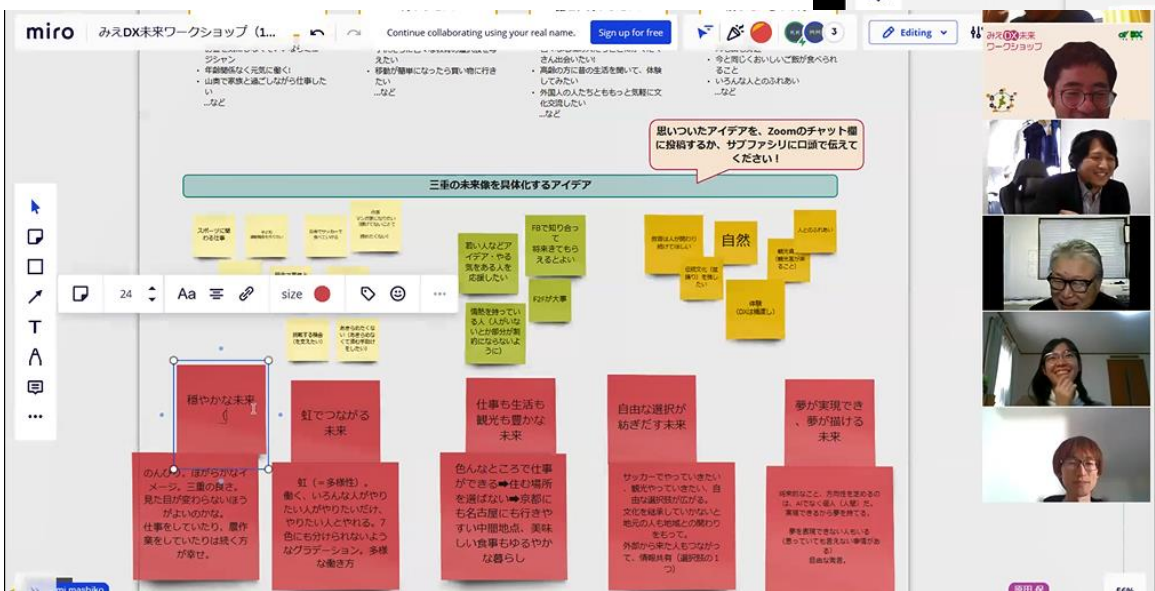
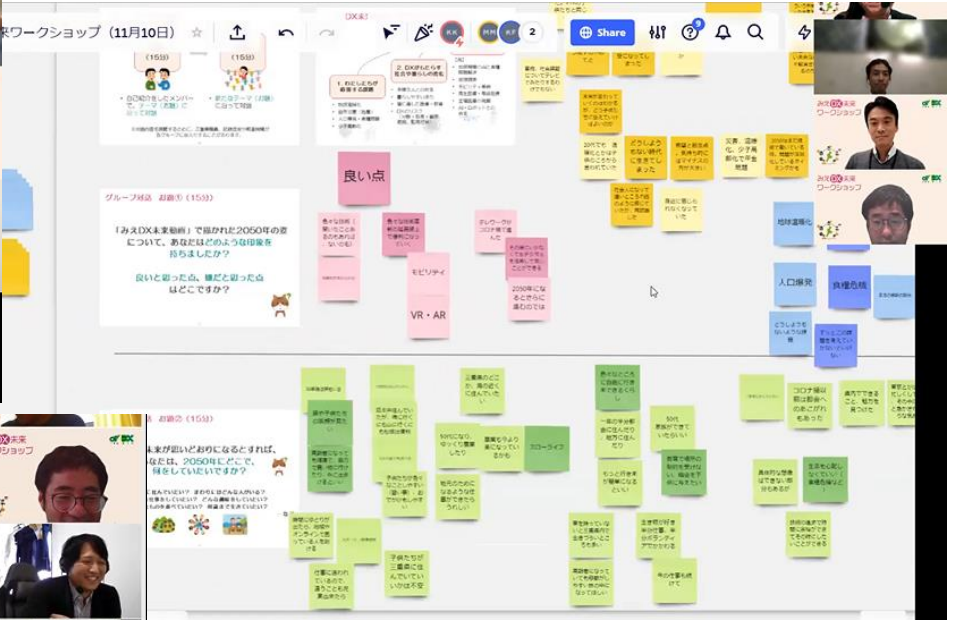
開催回	参加者数
2021年10月21日(木) 尾鷲市	5
2021年10月22日(金) 四日市市	4
2021年10月22日(金) 津市	3
2021年10月25日(月) 伊勢市	3
2021年11月30日(火) 伊賀市	4
合計	19



2021年11月上旬に、オンラインにて計3回実施。
三重県在住、三重県への移住・U / Iターン等を考えている、三重県出身で県外在住の皆さま
計52名に、ご参加いただきました。

単位:人

開催回	18歳未満	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳~	参加者数
1回目 11月3日(水・祝)	0	7	3	5	1	1	1	18
2回目 11月6日(土)	3	5	2	4	3	0	0	17
3回目 11月10日(水)	0	8	4	3	0	1	1	17
合計	3	20	9	12	4	2	2	52



1. 県民の皆さんの生活

- ✓ DXによって時間に余裕が生まれ、本当にやりたいことができる
- ✓ それぞれの地域でDXが進み、住みたい場所で自由に働き住み続けられる
- ✓ デジタルを通じて増えた多様なライフスタイルから自由に選択できる
- ✓ 仮想空間を柔軟に取り入れ、デジタルにも生活圏が広がる
- ✓ デジタルで人とのつながりが日常化し、孤独を感じず三重の暮らしを楽しみ続ける

2. 県民の皆さんと社会

- ✓ デジタルが自然と生活に溶け込んで、意識しなくてもよくなる
- ✓ 一人ひとりがデジタル社会に適応し、新たな幸せを見出している
- ✓ 多様なバックグラウンドを持つ人が、自分らしく暮らしている

3. 社会の構造

- ✓ デジタルを最大活用して将来的な社会不安が解消される
- ✓ 自己実現を果たす人の元気がめぐり、みんなで助け合える
- ✓ みんながデジタルでつながって、チカラを合わせて社会課題解決をする
- ✓ デジタルを最大活用して自然災害や感染症拡大に備え、いつもの暮らしが続けられる

4. 三重県の魅力

- ✓ いち早くデジタルの恩恵が行き渡り、みんなに選ばれる誇り高い三重になる
- ✓ デジタルによる進化と、今ある三重県の魅力を守ることを両立する

4. 三重県の魅力



1. 県民の皆さんの
生活

2. 県民の皆さんと社会

3. 社会の構造

◆ デジタル社会の未来像 ◆

2050年の三重県では、DXによって一人ひとりの時間に余裕が生まれて、それぞれが本当にやりたいことができるようになります。

さらに、それぞれの地域でDXが進んで、住みたい場所で自由に働き、住み続けられるようになり、仮想空間も柔軟に取り入れたりして、多様なライフスタイルから自由に選択できる社会となっています。

また、物理的な距離が離れていてもデジタルで人とのつながりが日常化し、孤独を感じずに三重の暮らしを楽しみ続けることが出来ています。

◆ デジタル活用の主な観点 ◆

◇ 一人ひとりが心ゆたかな暮らし(ウェルビーイング)

それぞれが本当にやりたいことができるために、事業者・行政等の組織や社会の合理化・効率化だけでなく、多様なバックグラウンドを前提とした多様なライフスタイル・多様な価値観を包摂し、一人ひとりが心ゆたかな暮らし(ウェルビーイング)の実現を目指すという観点

◇ 行政サービス100%デジタル化

一人ひとりの時間に余裕が生まれるために、デジタルを前提とした社会システムの再構築に向けて利用者中心の行政サービス改革を徹底し、デジタル化3原則(デジタルファースト、ワンスオンリー、コネクテッド・ワンストップ)を遵守することによって、利用者から見て一連のサービス全体が、「すぐ使えて」、「簡単」で、「便利」な行政サービスの実現を目指すという観点

◆ デジタル活用の主な観点 ◆

◇ 都市に負けない利便性と可能性

住みたい場所で自由に働き、住み続けられるために、次世代モビリティの実装、仮想空間の利活用、リモートワークの促進、AI・IoT・ロボティクスの活用などを通じて、都市に負けない利便性と可能性をもって、地域の持続可能な環境・社会・経済(サステイナビリティ)の実現を目指すという観点

◇ ライフとワークの双方におけるDX

多様なライフスタイルから自由に選択できるために、事業者・行政等の組織におけるDXだけでなく、家庭における家事・育児・介護などのDXも推進することにより、ライフとワークの双方におけるDXの推進を目指すという観点

◇ 時間と空間の制約を取り払う新たなコミュニケーション

物理的な距離が離れていてもデジタルで人とのつながりが日常化するために、バーチャル空間とフィジカル空間を高度に融合させることにより生じるリスクに対応しながら、時間と空間の制約を取り払う新たなコミュニケーションの実現を目指すという観点

◆ デジタル社会の未来像 ◆

2050年の三重県では、一人ひとりのデジタル社会への適応が進み、デジタルが自然と生活の中に溶け込んで、意識しなくても活用できるようになります。

また、誰もが学びや成長、個性を発揮する機会を得られることで、新たな幸せを見出しています。

そして、多様なバックグラウンドを持つ人々が自分らしく暮らし、尊重し合う寛容な社会となっています。

◆ デジタル活用の主な観点 ◆

◇ デジタル社会への適応を牽引するDX人材

一人ひとりがデジタル社会への適応をするために、地域・事業者・行政等においてデジタル社会への適応を牽引するDX人材の確保や育成の実現を目指すといった観点

◇ デジタル社会への適応に向けた学び直し

新たな幸せを見出すために、世代やジェンダー、言葉の壁、障がいの有無に関わらず、誰もがデジタル社会への適応に向けて学び直す機会の実現を目指すといった観点

◆ デジタル活用の主な観点 ◆

◇ 行政サービス利用者の体験価値の向上とデジタル格差の抑止

多様なバックグラウンドを持つ人々が自分らしく暮らすために、誰もがデジタル化の恩恵を受けられるよう、デジタル格差を生まない・拡げない・連鎖させないことを前提として、あらゆる行政サービスを見直し、特別の知識や複雑な操作を要しないシンプルな設計によるデジタル化の推進など、利用者目線に立った徹底的な利便性の向上と体験価値の向上の実現を目指すといった観点

◇ 一人ひとりの多様性を重視する社会づくり

デジタル社会を多様なバックグラウンドを持つ人々が尊重し合う寛容な社会とするために、ジェンダーギャップを解消し、若い世代・子育て世代・高齢世代など多世代が新たな社会づくりへ参画することにより、一人ひとりの多様性を重視する社会の実現を目指すといった観点

◆ デジタル社会の未来像 ◆

2050年の三重県では、デジタルの最大活用によって、少子高齢化・人口減少・経済・環境などの社会不安への対応を進めながら、安心した暮らしが続けられるようになっていきます。

また、DXによって時間の余裕が生まれ、自己実現を果たす人の元気がめぐり、みんなで助け合える社会になっています。

さらに、みんながデジタルでつながって、一人ひとりのチカラを合わせて社会課題を解決しています。

◆ デジタル活用の主な観点 ◆

◇ 徹底的なオープンデータ化

地域でデジタルを最大活用するため、また、一人ひとりのチカラを合わせて社会課題を解決していくためにも、オープンデータを活用して県民の皆さん・事業者・大学・研究機関・行政等が各々の立場で相互に協力し地域課題の解決を図る「シビックテック」等の推進に向けて、事業者・行政等で徹底的なオープンデータ化の実現を目指すという観点

◇ デジタルツインとデータ連携基盤(都市OS)

社会不安への対応を進めるために、様々なデータを基に、建物や道路などのインフラ、経済活動、人の流れなど様々な現実空間の要素を仮想空間に再現し、自然災害や地球温暖化の影響などの精緻なシミュレーションなどを行える「デジタルツイン」整備や、行政や事業者など地域内外の様々なオープンデータやビッグデータを仲介して連携させることにより新たなサービスを創出する「データ連携基盤」(都市OS)整備の実現を目指すといった観点

◆ デジタル活用の主な観点 ◆

◇ 県外スタートアップ企業と県内スタートアップ企業

自己実現を果たす人の元気がめぐり、みんなで助け合える社会とするために、地域の社会課題を解決する意志のある県外スタートアップ企業と地元起業家や事業者・行政等との交流によって、県外スタートアップ企業の誘致や県内スタートアップ企業の創出・育成を推進し、地域発の産業革新(イノベーション)の実現を目指すという観点

◇ 利便性の向上と安全安心の両立

みんながデジタルでつながるために、事業者・行政によるデジタルサービスの利便性の向上と、デジタルIDや暗号化技術などを活用したデータの本人性の確認、真正性・機密性・完全性・可用性の確保による信頼性の保証・証明や、サイバーセキュリティの確保、個人情報の保護などによる安全安心との両立の実現を目指すといった観点

◆ デジタル社会の未来像 ◆

2050年の三重県では、一人ひとりにいち早くデジタルの恩恵が行き渡って、心豊かな暮らしが持続されています。

また、自然・食・伝統文化など、今ある三重の魅力を守ることとデジタルによる進化とを両立して、新しい三重らしさが創られています。

そして、住む場所、働く場所、旅行先など、みんなに選ばれる誇り高い三重になっています。

◆ デジタル活用の主な観点 ◆

◇ デジタル活用度合いの把握と分析

一人ひとりにいち早くデジタルの恩恵が行き渡るために、デジタル社会形成の進展状況の可視化と課題への適切な対応に向けて、県民の皆さん・事業者・行政等によるデジタル活用度合いの把握や分析と定常的な公表の実現を目指すといった観点

◇ 県全域で快適なデジタルインフラ

一人ひとりにいち早くデジタルの恩恵が行き渡って、心豊かな暮らしが持続されるために、21世紀の基幹インフラとしてデジタルインフラを位置づけ、いつでも、誰でも、どこでもインターネットにつながるなどによって、県全域で快適なデジタルインフラの実現を目指すといった観点

◆ デジタル活用の主な観点 ◆

◇ 国際的な地域間競争に勝てる魅力

自然・食・伝統文化など、今ある三重の魅力を守ることとデジタルによる進化とを両立するために、デジタルを活用した観光資源の多言語対応や、地域の歴史や未来の要素を深く学び直す教育の充実等によって、国際的な地域間競争に勝てる魅力の実現を目指すといった観点

◇ 定期的に見直すデジタル社会の未来像

新しい三重らしさが創られていくために、デジタルが非連続かつ指数関数的なスピードの変化を引き起こし不確実性が高まる時代への対応として、デジタル社会の未来像について、定期的な見直しの実現を目指すといった観点

◇ DXによる地域の変化や成果が実感できる情報発信

みんなに選ばれる誇り高い三重となるために、県民の皆さんが前向きに取り組みたくなるような伝え方・見せ方などコミュニケーションの取り方に工夫を凝らすことによって、県民の皆さんだけでなく県外の方々もDXによる地域の変化や成果が実感できる情報発信の実現を目指すといった観点

ありがとうございました



三重県



M I E